

浜の活力再生広域プラン
(第2期)

1 広域水産業再生委員会

組織名	北るもい広域水産業再生委員会
代表者名	佐藤 満（北るもい漁業協同組合 代表理事組合長）

広域委員会の 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道羽幌地区地域水産業再生委員会 （北るもい漁協羽幌本所、羽幌町羽幌地区ほか） ・北海道天塩地区地域水産業再生委員会 （北るもい漁協天塩支所、天塩町ほか） ・北海道初山別地区地域水産業再生委員会 （北るもい漁協初山別支所、初山別村ほか） ・北海道苫前地域水産業再生委員会 （北るもい漁協苫前支所、苫前町ほか） ・北海道天売地区地域水産業再生委員会 （北るもい漁協天売支所、羽幌町天売地区ほか） ・北海道焼尻地区地域水産業再生委員会 （北るもい漁協焼尻支所、羽幌町焼尻地区ほか） ・北海道漁業協同組合連合会・北海道信用漁業協同組合連合会 ・全国漁業信用基金協会北海道支所 ・北海道漁業共済組合 ・全国共済水産業協同組合連合会北海道事務所 ・北海道
オブザーバー	

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	<p>北海道羽幌町、天塩町、初山別村、苫前町周辺地域</p> <p>羽幌町（羽幌地区）：えび漁業（6名）、たこ漁業（46名）、刺し網漁業等（49名）、なまこ桁網漁業（21名）、ほたてがい養殖業（6名）、さけ定置網漁業（3名）、その他兼業（うに・こんぶ・いか釣り漁業）</p> <p>天塩町：しじみ漁業（28名）、さけ定置網漁業（17名）、刺し網漁業等（24名）、その他兼業（たこ函・貝けた網・底建網漁業）、小定置漁業（9名）</p> <p>初山別村：たこ漁業（26名）、へらびき漁業（17名）、刺し網漁業等（12名）さけ定置網漁業（1名）、なまこ桁網漁業（12名）、その他兼業（ほたてがい養殖業）、小定置漁業（3名）</p> <p>苫前町：たこ漁業（48名）、刺し網漁業等（32名）、ほたてがい養殖業（12名）、なまこ桁網漁業（10名）、うに漁業（17名）、えび漁業（4名）、その他漁業（こんぶ・いか釣り漁業）</p> <p>羽幌町（天売地区）：うに漁業（49名）、たこ漁業（48名）、一本釣り漁業（22名）、刺し網漁業等（19名）、なまこ桁網漁業（14名）、ほたてがい養殖業（1名）、小定置漁業（16名）</p>
---------------------------	---

	羽幌町(焼尻地区):うに漁業(24名)、たこ漁業(15名)、一本釣り漁業(11名)、刺し網漁業等(6名)、なまこ桁網漁業(13名)、ほたてがい養殖業(2名)、小定置漁業(10名) 正組合員:256名
--	--

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

<p>北るもい広域水産業再生委員会は3町1村を対象とし、北るもい漁業協同組合が所管する地域と同じくする。北るもい漁業協同組合は平成16年1月1日、当時の天塩漁協、初山別漁協、羽幌町漁協、苫前漁協の4つの漁協が合併して設立された。現在は、羽幌本所のほか、天塩、初山別、苫前、天売(離島)、焼尻(離島)の計5ヶ所に支所があり、各支所はそれぞれ荷捌き施設を有しているが、市場は羽幌、苫前の2ヶ所に集約されており、各支所から集荷されている。また羽幌本所には直販施設「産直工房きたる」があり、漁協直営で鮮魚・冷凍、加工品等の販売を行っている。また、地区内全域で漁獲されるミズダコについては初山別地区の加工施設にて製品化及び出荷されており、加工体制が構築されているものの、現有の加工施設は設計が古く構造的な欠陥を抱えており、適切な衛生管理を行うことが困難であり、今後の販路拡大を目指すにあたり対応が必要となっている。</p> <p>3町1村はいずれも日本海北部に面し第一次産業が基幹産業であり、特に羽幌町においてはそれぞれ人口200人程度が居住する天売島・焼尻島を抱え、島民のほぼすべてが漁業と関係があり、漁業依存度が極めて高い地域である。羽幌沖の日本海、天売島の西方海域に「武蔵堆」と呼ばれる海底山脈があり、水深数百メートルから表層に向けて生じる湧昇流でプランクトンが発生し良漁場を形成する。地域ごとに漁業種類は多様で、最北の天塩町は秋サケ・タコ類のほか内水面漁業を併せ営み、シジミが有名である。初山別村では秋サケ・ナマコ・タコのほかヒラメなどが水揚げの全体を占め、併せて遊漁が盛んである。近隣する羽幌町・苫前町は漁業形態がほぼ同様であり、エビ・ホタテガイが水揚げの半分を占め、ナマコ・タコ類・ウニ・カレイなどが水揚げされている。また、ウニについては、そのほとんどが天売・焼尻での水揚げであり、両島の主力魚種となっている。</p> <p>このように多様で豊富な天然資源に恵まれる一方、対象地域全域に渡ってトド等海獣による漁業被害が深刻であり、特に刺し網漁業やたこ漁業への被害が大きく冬期間の休業等を余儀なくされている。また、道内中心都市から遠方に位置しており、流通面(主に札幌方面)でのコスト高や出荷に時間を要するという課題はあるが、鮮魚流通のみでなく冷凍やさまざまな加工技術を取り入れることで高付加価値を図っている。さらに、離島地区においてはフェリーによる出荷や、漁船による本土への直接水揚げを行っているが、天売、焼尻島へは羽幌港(地方港湾)からそれぞれ約90分、60分、通常期は1日1~2便往復運行しているものの、荒天による欠航やフェリー運賃がかさみ流通コストが漁業経営に影響し苦慮している。加えて、当地域は冬期の気候が極めて厳しく、漁船エンジンの破損防止のため長時間のアイドリングを必要とし、燃油代が多額となっており、こうした地域特有の生産コストも大きい。</p> <p>また、近年6月~11月にかけて、クロマグロの混獲が散見されるところである。WCPFC(中西部太平洋まぐろ類委員会)で合意された保存管理措置に基づいて設定されている我が国のクロマグロ漁獲上限を遵守するためには、当該地域の定置網漁業及び漁船漁業を休漁せざるを得ず、かかる事態となれば、本広域浜プランに掲げる市場機能の集約という機能再編に支障を来すこととなり、クロマグロの混獲回避が必要となっている。</p> <p>このほか、雇用環境においては、高齢化や後継者不足により乗組員や陸上作業員の労働力不足が顕在化し、現在は、北るもい漁協が監理団体として新規外国人技能実習生を受け入れ、労働力</p>
--

不足の解消に努めている。

(2) その他の関連する現状等

対象地域の総人口はおよそ 13,811 人でうち組合員は 256 人。60 歳代が組合員全体の 31.3% を占め、次いで 50 歳代が 19.9%、40 歳代が 13.3%となっている。地域全体では第一次産業が中心で、農業・漁業の生産が主たる産業・雇用を担っているが、人口減少が甚だしく、若年層の都市圏流出や高齢化の問題が深刻である。

観光においては、地域の沿線をオロロンラインと呼称しており、有効な風況を利用して風車による風力発電が景観を盛り立てている。各町村においては温泉施設を利用した観光客誘致に取り組んでいるものの、地域資源と連携した有効な事業展開にいたっていない。

また、北海道の中心都市である札幌（車で約 3 時間）や旭川（車で約 2 時間）から遠方に位置し、鉄道は 50km 南の JR 留萌駅までしか通っていないため、物流においてはコスト高となり、旅行における主たる移動はバスになる。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

北るもい地域において水産業は、関連産業を含めて地域を支える基幹産業であり、豊かで活力ある地域の広域的な発展のためには漁業の生産力向上が欠かせない。本プランでは、漁業の生産力の向上を図ることを目的に、前期に引き続き、①流通・販売及び加工の強化、②生産コストの削減に取り組むことを基本的な方針とする。

① 流通・販売については、鮮魚、水産加工品販売の強化と都市圏販売特化型戦略の展開により、販路の拡大を目指すほか、条件不利地域にある離島における物流を冷凍技術等により改善することで新たな販路の開拓を目指す。

また、水産加工部門の集約をめざし、加工向け・冷凍向けに漁協が買い取り販売を強化す

ることにより魚価の底支えを図るとともに、販路拡大に向けての衛生管理が課題となっている加工施設の改築を行うことにより、衛生管理の強化を目指す。併せて、地域内の各町村イベントで加工品等を販売することにより、地域の知名度向上とさらなる魚価向上を図る。

- ② 生産コストについては、カレイ類など出荷物の集約を継続し、セリに係る業務の効率化や総体的な物流コスト削減を図るほか、統一的な航行規則の取組等により、効率的な操業体制を構築するなど、コスト削減を総合的に検討し取り組んでいく。

また、トド被害や密漁の被害によるコスト上昇を解消するため、各地区で連携し抑制に努める。

○ 具体的取組

- ・羽幌、苫前地区において、甘エビ盛漁期に浜値を支える加工品について引き続き新たな商品開発の検討を行うとともに、地元仲買人組合と連携して販売戦略を練り都市向け販路拡大を目指す。
- ・天売、焼尻地区に整備した冷凍冷蔵施設及び荷揚げ施設の活用により、引き続き、鮮度保持等物流対策による流通環境の格差是正や水揚げ作業の省力化・効率化による高齢者の軽労化を図るとともに、出荷調整等の効果的な出荷方法を検討し、魚価向上を図る。
- ・天塩、初山別各地区の鮮魚を苫前市場に、天売、焼尻地区の鮮魚を羽幌市場に集約し、業務の簡略化による物流コスト削減と漁協独自の販売戦略による魚価向上を図る。さらに、天塩、天売、焼尻地区で漁獲されたタコを初山別地区へ集荷し、初山別地区に令和3年2月完成予定の冷凍冷蔵施設を活用して水産加工部門の集約を目指すことで、漁協が行う加工・販売を強化するとともに、地元仲買組合や民間加工業者と連携し、都市圏特化販売戦略を実施する。
- ・地域内のミズダコ加工を担う初山別地区の加工施設について、昆虫の防除対策が不十分な開口部などの設備の欠陥により、適切な衛生管理を行うことが困難となっていることから、加工施設の改築を行い衛生管理体制を構築することにより、加工を通じた付加価値向上による浜値の下支えを図るとともに、輸出を促進し、販路の拡大を目指す。
- ・各地区において、地元観光協会と連携し、各町村の催事やイベントに加工品等を販売することにより、地方からの来客者に対し地域の知名度向上を図りながら、魚価の向上を目指す。
- ・なまこ桁網漁業において出港時間と入港時間を設定し、操業時間を合わせるなど、統一的な航行規則の取組を地域全体で実証することで、収益性の高い操業や燃油コストの削減を目指した効率的な操業体制の構築を推進する。
- ・冬期間は漁船エンジンの破損防止のため、長時間のアイドリングを必要としており、このための燃油代が多額となっていることから、陸電施設を整備しエンジンの保温を電気により行うことで、燃油の削減によるコストの低減を図る。
- ・被害が深刻なトド被害については、引き続き各地区が協力して、被害状況の把握、抑制に努めるとともに、道、国との連携を強化する。
- ・ウニ、アワビ、ナマコなどの浅海資源の密漁への対策として、全地区に録画機能付き監視カメラを設置し、羽幌地区から全地区の監視を可能にする。密漁情報を各地区間で共有し、監視体制を構築し、密漁の抑止を図る。
- ・本地域では、市場や水産加工部門の集約等の広域連携により、水産業の競争力強化を図ることとしているが、これを推進するためには、本地域で水揚げされる定置網漁業及び漁船漁業の安定的な操業が必要である。そのため、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な資源管理を実施する。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

① 前期の浜の活力再生広域プランの評価 (成果及び課題等)

--

② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

<p>担い手については、前期に引き続き中核的担い手を確保・育成するために必要な知識及び技術に関する研修に対する支援など、各地域の漁業を確実に次の世代に引き継ぐことを基本とし、監理団体として積極的に海外への技術移転を兼ねた外国人技能実習生の活用を進めていく。</p> <p>○ 具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none">・各地区において、中核的漁業者の育成、新規就業者確保のための研修に対する支援、漁船リース及び新リースによる漁船導入支援や漁業機器等の操業環境の整備、漁業転換による収益性向上に努める。また、新規就業者支援フェアへ参加するとともに、初山別村で実施している新規漁業就業者支援事業と連携することにより、漁業就業者の確保・育成を図る。・就業者が不足しているえび籠漁業及びほたて養殖漁業等の乗組員等の外国人技能実習生の受け入れを、監理団体として継続的に取り組む。・磯根資源の再生産に着目し、道と連携し、天売焼尻漁港西浦地区の漁港静穏域においてウニ中間育成並びにナマコ増養殖に取り組むことで、中核的漁業者が将来担える新規漁業を創出していく。・天塩地区の食育を通じた地域間交流、料理教室、出前授業等により地域水産物の消費拡大および魚食の普及に努め、将来的な担い手の確保を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

北るもい漁協が定める資源管理計画に基づき、漁獲努力量の削減・維持を図り、漁業経営の安定化に取り組む。
--

(4) 具体的な取組内容 (年度ごとに数値目標とともに記載)

1 年目 (令和3年度)

取組内容	1 流通・販売の強化 ① 羽幌、苫前地区のえび類加工品として使われる甘えびは、漁獲が集中する時期に低価格での取引となる。このため、平成27年に導入したりキッ
------	---

	<p>ド凍結を利用した冷凍販売品（剥きエビ及び殻粉末）により、浜値の底支えを行っている。剥きエビは多様化する商品開発により需要が伸びており、また、えび殻粉末もドレッシング、麺類などへの活用など加工品向けの需要が増えている。</p> <p>羽幌・苫前地区のえび漁業者は、引き続き新たな商品開発の検討を行うとともに、これらの新たな商品を活用し、地元仲買人組合との連携により、都市圏向け販売戦略を協議し冷凍販売品の販路拡大を進める。</p> <p>② 天売・焼尻地区の組合員は、両地区に整備された、鮮度保持等物流対策のための冷凍冷蔵施設及び水揚げ作業の省力化・効率化を図るための荷揚施設を活用し、引き続き、流通環境の格差是正や高齢者の軽労化を図るとともに、効果的な出荷方法を検討する。</p> <p>③ 天塩・初山別・天売・焼尻地区のたこ漁業者は、初山別地区に新たに整備した冷凍冷蔵施設を活用し、水産加工部門の集約を進めるとともに、更なる加工品販売の都市圏特化販売戦略を検討する。</p> <p>④ 各地区の直売所は、それぞれの地元観光協会と連携し、各町村の催事やイベントに加工品等を販売することにより、地方からの来客者に対し地域の知名度向上を図りながら、魚価の向上対策に努める。</p> <p>2 生産コストの削減</p> <p>① 天塩・初山別地区の組合員は苫前市場へ、天売・焼尻地区の組合員は羽幌市場へカレイ等を集荷し一括してセリを行い、業務の簡略化による物流コスト削減と漁協独自の販売戦略による魚価向上を図る。</p> <p>② 各地区の組合員は、出港時間と入港時間を設定し、操業時間を合わせるなどの統一的な航行規則の取組などを地域全体で実証することで、収益性の高い操業や燃油コストの削減を目指した効率的な操業体制の構築を推進する。</p> <p>③ 刺網漁業、小定置漁業においては、トドの被害が漁具の損傷など著しくコストを上昇させ深刻な状況となっており、対策として現在補助事業として、駆除や強化刺網、水域監視等の援助を受けているが、今後も国及び道へ強く支援要請を行い被害状況の把握や抑制に努める。</p> <p>④ ウニ、アワビ、ナマコなどの密漁の横行により、漁業経営に大きな影響を及ぼしていることから、漁協は、各地区間で密漁情報を共有し監視体制を構築することにより、密漁の抑止を図る。</p> <p>⑤ 定置網漁業の安定的操業を図るため、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための、取組を行う。</p> <p>3 担い手の育成</p> <p>① 漁協は、水産業の持続的発展にとどまらず、地域経済の維持発展のため、漁業を次の世代に伝える中核的漁業者の育成を目指し、必要な知識及び技術取得に関する研修などを行う。また、漁船及び漁業機器等の購入費用の増大・負担等が経営の維持、安定の障害となっていることから、漁船リース及び新リースによる漁船、漁具導入支援や漁業機器等の操業環境の整備、陸上作業や漁船操業の軽労化・省コスト化が可能な漁業種への漁業転換による収益性向上の支援を行う。</p> <p>また、各地区の組合員は、新規就業者支援フェアなどに積極的に参加するとともに、初山別村で実施している新規漁業就業者支援事業と連携する</p>
--	--

	<p>ことで、新規漁業就業者の確保にも努める。</p> <p>② えび籠・えびこぎ及びさけ定置漁業並びにほたて養殖漁業の乗組員及び陸上作業員不足が顕著であることから、各地区の組合員は、海外への技術の移転と併せて積極的に外国人技能実習生の受け入れを行う。</p> <p>③ 良好な漁場と豊かな資源がなければ今後の担い手を維持・確保していくことは困難なため、将来にわたり持続可能な資源の利用保全と担い手育成の観点からも、根付資源の再生産に目を向け、天売焼尻島の漁港静穏域において、漁業後継者や青年部は、関係者からの協力を得ながら、ウニ中間育成並びにナマコ増養殖の新規増養殖に取り組み、中核的漁業者が将来担える新規漁業の創出を図る。</p> <p>④ 天塩支所においては、東京の学校給食にカレイ類の提供をしており、今後も食育を通じた地域間交流に力を入れる。また、地元以外でも料理教室や出前授業を実施するとともに、全道規模で取り込まれる魚食普及事業などに積極的に参加することで、地域水産物の消費拡大及び魚食の普及による将来的な担い手の確保を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域浜プラン緊急対策事業（効率的な操業体制の確立支援） 2－② ・ 広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援） 2－⑤ ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 3－① ・ 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 3－① ・ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 3－①

2年目（令和4年度）

取組内容	<p>1 流通・販売の強化</p> <p>① 羽幌・苫前地区のえび漁業者は、剥きエビやえび殻粉末などリキッド凍結を利用した冷凍販売品の新たな商品開発を引き続き行うとともに、これらの新たな商品を活用し、地元仲買人組合と都市圏向け販売戦略を協議し、冷凍販売品の販路拡大を進める。</p> <p>② 天売・焼尻地区の組合員は、両地区に整備された、鮮度保持等物流対策のための冷凍冷蔵施設及び水揚げ作業の省力化・効率化を図るための荷揚施設を活用し、引き続き、流通環境の格差是正や高齢者の軽労化を図るとともに、効果的な出荷方法を検討する。</p> <p>③ 天塩・初山別・天売・焼尻地区のたこ漁業者は、初山別地区に新たに整備した冷凍冷蔵施設を活用し、水産加工部門の集約を進めるとともに、更なる加工品販売の都市圏特化販売戦略を検討する。</p> <p>④ 各地区の直売所は、地元観光協会と連携し、各町村の催事やイベントに加工品等を販売することにより、地方からの来客者に対し地域の知名度向上を図りながら、魚価の向上対策に努める。</p> <p>2 生産コストの削減</p> <p>① 天塩・初山別地区の組合員は苫前市場へ、天売・焼尻地区の組合員は羽幌市場へカレイ等を集荷し一括してセリを行い、業務の簡略化による物流コスト削減と漁協独自の販売戦略による魚価向上を図る。</p> <p>② 各地区の組合員は、出港時間と入港時間を設定し、操業時間を合わせる</p>
------	---

	<p>などの統一的な航行規則の取組などを地域全体で実証することで、収益性の高い操業や燃油コストの削減を目指した効率的な操業体制の構築を推進する。</p> <p>③ トドの被害によるコストの上昇を解消するため、被害状況の把握や駆除、強化刺網、水域監視等により被害の抑制に努めるとともに、引き続き国、道へ支援要請を行う。(以降最終年まで同様)</p> <p>④ ウニ、アワビ、ナマコなどの密漁の横行により、漁業経営に大きな影響を及ぼしていることから、漁協は、前年に構築した監視体制により各地区間で密漁情報を共有し、密漁の抑止を図る。</p> <p>⑤ 定置網漁業の安定的操業を図るため、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための、取組を行う。</p> <p>3 担い手の育成</p> <p>① 漁協は、水産業の持続的発展にとどまらず、地域経済の維持発展のため、漁業を次の世代に伝える中核的漁業者の育成を目指し、引き続き、必要な知識及び技術取得に関する研修などを行うほか、漁船リース及び新リースによる漁船、漁具導入支援や漁業機器等の操業環境の整備、漁業転換による収益性向上の支援を行う。</p> <p>また、各地区の組合員は、新規就業者支援フェアなどに積極的に参加するとともに、初山別村で実施している新規漁業就業者支援事業と連携することで、新規漁業就業者の確保にも努める。(以降最終年まで同様)</p> <p>② えび籠・えびこぎ及びさけ定置漁業並びにほたて養殖漁業の乗組員及び陸上作業員不足が顕著であることから、各地区の組合員は、海外への技術の移転と併せて積極的に外国人技能実習生の受け入れを行う。</p> <p>③ 今後の漁業担い手育成と根付資源の再生産のため、天売焼尻島の漁港静穏域において、漁業後継者や青年部は、関係者からの協力を得ながら、ウニ中間育成並びにナマコ増養殖の新規増養殖に取り組み、中核的漁業者が将来担える新規漁業の創出を図る。</p> <p>④ 東京の学校給食へのカレイ類の提供など、今後も食育を通じた地域間交流に力を入れるとともに、料理教室、出前授業、さらには全道規模で取り組まれる魚食普及事業などに積極的に参加することで、地域水産物の消費拡大及び魚食の普及による将来的な担い手の育成を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域浜プラン緊急対策事業（効率的な操業体制の確立支援） 2－③ ・ 広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援） 2－⑤ ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 3－① ・ 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 3－① ・ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 3－①

3年目（令和5年度）

取組内容	<p>1 流通・販売の強化</p> <p>① 羽幌・苫前地区のえび漁業者は、剥きエビやえび殻粉末などリキッド凍結を利用した冷凍販売品の新たな商品開発を引き続き行うとともに、これらの新たな商品を活用し、地元仲買人組合と都市圏向け販売戦略を協議し、冷凍販売品の販路拡大を進める。</p> <p>② 天売・焼尻地区の組合員は、両地区に整備された、鮮度保持等物流対策</p>
------	---

のための冷凍冷蔵施設及び水揚げ作業の省力化・効率化を図るための荷揚施設を活用し、引き続き、流通環境の格差是正や高齢者の軽労化を図るとともに、検討した効果的な出荷方法を実施する。

- ③ 天塩・初山別・天売・焼尻地区のたこ漁業者は、初山別地区に新たに整備した冷凍冷蔵施設を活用し、水産加工部門の集約を進めるとともに、更なる加工品販売の都市圏特化販売戦略を展開する。
- ④ 各地区の直売所は、地元観光協会と連携し、各町村の催事やイベントに加工品等を販売することにより、地方からの来客者に対し地域の知名度向上を図りながら、魚価の向上対策に努める。

2 生産コストの削減

- ① 天塩・初山別地区の組合員は苫前市場へ、天売・焼尻地区の組合員は羽幌市場へカレイ等を集荷し一括してセリを行い、業務の簡略化による物流コスト削減と漁協独自の販売戦略による魚価向上を図る。
- ② 各地区の組合員は、出港時間と入港時間を設定し、操業時間を合わせるなどの統一的な航行規則の取組などを地域全体で実証することで、収益性の高い操業や燃油コストの削減を目指した効率的な操業体制の構築を推進する。
- ③ トドの被害によるコストの上昇を解消するため、被害状況の把握や駆除、強化刺網、水域監視等により被害の抑制に努めるとともに、引き続き国、道へ支援要請を行う。
- ④ ウニ、アワビ、ナマコなどの密漁の横行により、漁業経営に大きな影響を及ぼしていることから、漁協は、構築した監視体制により各地区間で密漁情報を共有し、密漁の抑止を図る。
- ⑤ 定置網漁業及び漁船漁業の安定的操業を図るため、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための、取組を行う。

3 担い手の育成

- ① 漁協は、水産業の持続的発展にとどまらず、地域経済の維持発展のため、漁業を次の世代に伝える中核的漁業者の育成を目指し、引き続き、必要な知識及び技術取得に関する研修などを行うほか、漁船リース及び新リースによる漁船、漁具導入支援や漁業機器等の操業環境の整備、漁業転換による収益性向上の支援を行う。

また、各地区の組合員は、新規就業者支援フェアなどに積極的に参加するとともに、初山別村で実施している新規漁業就業者支援事業と連携することで、新規漁業就業者の確保にも努める。(以降最終年まで同様)

- ② えび籠・えびこぎ及びさけ定置漁業並びにほたて養殖漁業の乗組員及び陸上作業員不足が顕著であることから、各地区の組合員は、海外への技術の移転と併せて積極的に外国人技能実習生の受け入れを行う。
- ③ 今後の漁業担い手育成と根付資源の再生産のため、天売焼尻島の漁港静穏域において、漁業後継者や青年部は、関係者からの協力を得ながら、ウニ中間育成並びにナマコ増養殖の新規増養殖に取り組み、中核的漁業者が将来担える新規漁業の創出を図る。
- ④ 東京の学校給食へのカレイ類の提供など、今後も食育を通じた地域間交流に力を入れるとともに、料理教室、出前授業、さらには全道規模で取り

	<p>組まれる魚食普及事業などに積極的に参加することで、地域水産物の消費拡大及び魚食の普及による将来的な担い手の育成を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域浜プラン緊急対策事業（効率的な操業体制の確立支援） 2-② ・ 広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援） 2-⑤ ・ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 3-① ・ 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 3-① ・ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 3-①

4年目（令和6年度）

取組内容	<p>1 流通・販売及び加工の強化</p> <p>① 羽幌・苫前地区のえび漁業者は、剥きエビやえび殻粉末などリキッド凍結を利用した冷凍販売品の新たな商品開発を引き続き行うとともに、これらの新たな商品を活用し、地元仲買人組合と都市圏向け販売戦略を協議し、冷凍販売品の販路拡大を進める。</p> <p>② 天売・焼尻地区の組合員は、両地区に整備された、鮮度保持等物流対策のための冷凍冷蔵施設及び水揚げ作業の省力化・効率化を図るための荷揚施設を活用し、引き続き、流通環境の格差是正や高齢者の軽労化を図るとともに、検討した効果的な出荷方法を実施する。</p> <p>③ 天塩・初山別・天売・焼尻地区のたこ漁業者は、初山別地区に新たに整備した冷凍冷蔵施設を活用し、水産加工部門の集約を進めるとともに、更なる加工品販売の都市圏特化販売戦略を展開する。</p> <p>④ 各地区の直売所は、地元観光協会と連携し、各町村の催事やイベントに加工品等を販売することにより、地方からの来客者に対し地域の知名度向上を図りながら、魚価の向上対策に努める。</p> <p>⑤ 北るもい漁協は、昆虫の防除対策が不十分な開口部などの設備等の欠陥により、適切な衛生管理を行うことが困難となっている初山別地区の加工施設の改築に着手し衛生管理体制を構築することにより、加工を通じた付加価値向上による浜値の下支えを図るとともに、輸出を促進し販路の拡大を目指す。</p> <p>2 生産コストの削減</p> <p>① 天塩・初山別地区の組合員は苫前市場へ、天売・焼尻地区の組合員は羽幌市場へカレイ等を集荷し一括してセリを行い、業務の簡略化による物流コスト削減と漁協独自の販売戦略による魚価向上を図る。</p> <p>② 各地区の組合員は、出港時間と入港時間を設定し、操業時間を合わせるなどの統一的な航行規則の取組などを地域全体で実証することで、収益性の高い操業や燃油コストの削減を目指した効率的な操業体制の構築を推進する。</p> <p>③ トドの被害によるコストの上昇を解消するため、被害状況の把握や駆除、強化刺網、水域監視等により被害の抑制に努めるとともに、引き続き国、道へ支援要請を行う。</p> <p>④ ウニ、アワビ、ナマコなどの密漁の横行により、漁業経営に大きな影響を及ぼしていることから、漁協は、構築した監視体制により各地区間で密漁情報を共有し、密漁の抑止を図る。</p>
------	--

	<p>⑤ 定置網漁業及び漁船漁業の安定的操業を図るため、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための、取組を行う。</p> <p>3 担い手の育成</p> <p>① 漁協は、水産業の持続的発展にとどまらず、地域経済の維持発展のため、漁業を次の世代に伝える中核的漁業者の育成を目指し、引き続き、必要な知識及び技術取得に関する研修などを行うほか、漁船リース及び新リースによる漁船、漁具導入支援や漁業機器等の操業環境の整備、漁業転換による収益性向上の支援を行う。</p> <p>また、各地区の組合員は、新規就業者支援フェアなどに積極的に参加するとともに、初山別村で実施している新規漁業就業者支援事業と連携することで、新規漁業就業者の確保にも努める。</p> <p>② えび籠・えびこぎ及びさけ定置漁業並びにほたて養殖漁業の乗組員及び陸上作業員不足が顕著であることから、各地区の組合員は、海外への技術の移転と併せて積極的に外国人技能実習生の受け入れを行う。</p> <p>③ 今後の漁業担い手育成と根付資源の再生産のため、天売焼尻島の漁港静穏域において、漁業後継者や青年部は、関係者からの協力を得ながら、ウニ中間育成並びにナマコ増養殖の新規増養殖に取り組み、中核的漁業者が将来担える新規漁業の創出を図る。</p> <p>④ 東京の学校給食へのカレイ類の提供など、今後も食育を通じた地域間交流に力を入れるとともに、料理教室、出前授業、さらには全道規模で取り組まれる魚食普及事業などに積極的に参加することで、地域水産物の消費拡大及び魚食の普及による将来的な担い手の育成を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化緊急施設整備事業 1-⑤ ・広域浜プラン緊急対策事業（効率的な操業体制の確立支援） 2-② ・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援） 2-⑤ ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 3-① ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 3-① ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 3-①

5年目（令和7年度）

取組内容	<p>1 流通・販売及び加工の強化</p> <p>① 羽幌・苫前地区のえび漁業者は、剥きエビやえび殻粉末などリキッド凍結を利用した冷凍販売品の新たな商品開発を引き続き行うとともに、これらの新たな商品を活用し、地元仲買人組合と都市圏向け販売戦略を協議し、冷凍販売品の販路拡大を進める。</p> <p>② 天売・焼尻地区の組合員は、両地区に整備された、鮮度保持等物流対策のための冷凍冷蔵施設及び水揚げ作業の省力化・効率化を図るための荷揚施設を活用し、引き続き、流通環境の格差是正や高齢者の軽労化を図るとともに、検討した効果的な出荷方法を実施する。</p> <p>③ 天塩・初山別・天売・焼尻地区のたこ漁業者は、初山別地区に新たに整備した冷凍冷蔵施設を活用し、水産加工部門の集約を進めるとともに、更なる加工品販売の都市圏特化販売戦略を展開する。</p> <p>④ 各地区の直売所は、地元観光協会と連携し、各町村の催事やイベントに</p>
------	---

	<p>加工品等を販売することにより、地方からの来客者に対し地域の知名度向上を図りながら、魚価の向上対策に努める。</p> <p>⑤ 北るもい漁協は、昆虫の防除対策が不十分な開口部などの設備の欠陥により、適切な衛生管理を行うことが困難となっている初山別地区の加工施設の改築を進め衛生管理体制を構築することにより、加工を通じた付加価値向上による浜値の下支えを図るとともに、輸出を促進し販路の拡大を目指す。</p> <p>2 生産コストの削減</p> <p>① 天塩・初山別地区の組合員は苫前市場へ、天売・焼尻地区の組合員は羽幌市場へカレイ等を集荷し一括してセリを行い、業務の簡略化による物流コスト削減と漁協独自の販売戦略による魚価向上を図る。</p> <p>② 各地区の組合員は、統一的な航行規則の取組などを地域全体で実証することで、収益性の高い操業や燃油コストの削減を目指した効率的な操業体制の構築を推進する。</p> <p>③ トドの被害によるコストの上昇を解消するため、被害状況の把握や駆除、強化刺網、水域監視等により被害の抑制に努めるとともに、引き続き国、道へ支援要請を行う。</p> <p>④ ウニ、アワビ、ナマコなどの密漁の横行により、漁業経営に大きな影響を及ぼしていることから、漁協は、構築した監視体制により各地区間で密漁情報を共有し、密漁の抑止を図る。</p> <p>⑤ 定置網漁業及び漁船漁業の安定的操業を図るため、クロマグロの混獲が見られた際、混獲を回避するための、取組を行う。</p> <p>⑥ 冬期間、凍結防止のための漁船エンジンのアイドルリングにより、燃油によるコストが多額となっていることから、羽幌港での陸電施設の整備に着手し、燃油の使用料金を削減し、生産コストの低減を図る。</p> <p>3 担い手の育成</p> <p>① 漁協は、水産業の持続的発展にとどまらず、地域経済の維持発展のため、漁業を次の世代に伝える中核的漁業者の育成を目指し、引き続き、必要な知識及び技術取得に関する研修などを行うほか、漁船リース及び新リースによる漁船、漁具導入支援や漁業機器等の操業環境の整備、漁業転換による収益性向上の支援を行う。</p> <p>また、各地区の組合員は、新規就業者支援フェアなどに積極的に参加するとともに、初山別村で実施している新規漁業就業者支援事業と連携することで、新規漁業就業者の確保にも努める。</p> <p>④ えび籠・えびこぎ及びさけ定置漁業並びにほたて養殖漁業の乗組員及び陸上作業員不足が顕著であることから、各地区の組合員は、海外への技術の移転と併せて積極的に外国人技能実習生の受け入れを行う。</p> <p>② 今後の漁業担い手育成と根付資源の再生産のため、天売焼尻島の漁港静穏域において、漁業後継者や青年部は、関係者からの協力を得ながら、ウニ中間育成並びにナマコ増養殖の新規増養殖に取り組み、中核的漁業者が将来担える新規漁業の創出を図る。</p> <p>③ 東京の学校給食へのカレイ類の提供など、今後も食育を通じた地域間交流に力を入れるとともに、料理教室、出前授業、さらには全道規模で取り</p>
--	--

	<p>組まれる魚食普及事業などに積極的に参加することで、地域水産物の消費拡大及び魚食の普及による将来的な担い手の育成を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化緊急施設整備事業 1-⑤、2-⑥ ・広域浜プラン緊急対策事業（効率的な操業体制の確立支援） 2-② ・広域浜プラン緊急対策事業（クロマグロ混獲回避活動支援） 2-⑤ ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 3-① ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 3-① ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 3-①

(5) 関係機関との連携

<ul style="list-style-type: none"> ・北るもい仲買人組合と連携し都市圏（東京・金沢・札幌以外の都市）への販路拡大等、現取引地域外への積極的な鮮魚流通の拡大を図る。 ・道と連携しウニ中間育成並びにナマコ増養殖技術を確立する。 ・外国人研修生の斡旋業者と連携し、えび籠漁業及びいか釣漁業での乗組員確保等の有効的な雇用促進を図る。 ・トド被害対策として国、道へ強く支援要請を行い、引き続きとど駆除、追い払い、強化刺網導入、水域監視等を実施し被害状況の把握や抑制に努める。

(6) 他産業との連携

<p>加工事業者と連携して新鮮冷凍食材を用いての首都圏物流の強化や、食品会社と連携してしじみ貝やえび粉末等を利用した新商品開発による6次産業化を目指す。</p> <p>また、地元観光協会と連携を取り各町村イベント（羽幌町甘えび祭り・天塩町鏡沼しじみ祭り・初山別村岬祭り・苫前町北海道風車まつり・羽幌町天売ウニ祭り・羽幌町焼尻めん羊祭り）で加工品等を販売し地方からの来客者に対し地域の知名度向上を図る。</p> <p>さらに、札幌市・旭川市・北広島市等で開催される漁協関係の催事や全道的に取り組まれる食育推進に積極的に参加し、消費拡大を図ることで価格の向上を図る。</p>

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

<p>広域的な機能分担と地区間の連携を進めることにより、本プランの主要な取組対象であり、かつ、地域を代表する3魚種の生産平均単価の向上及び担い手確保を活性化指標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産平均単価については、地域内の各町村イベントでの加工品販売等で地域の知名度向上に取り組む「えび」、初山別への水産加工部門の集約と加工品の販路拡大に取り組む「たこ」、引き続き集荷一括セリによる魚価の向上並びに物流コスト削減に取り組む「かれい類」の平均単価の向上を目指す。 ・担い手確保については、人材育成等による持続的な生産体制に取り組むことから、えび籠漁業、えびこぎ漁業、ほたて漁業の乗組員従業員から正組合員加入を見込んだ新規就業者(新規組合員加入)数とする。
--

(2) 成果目標

北るもい漁協 魚種の単価向上 (円/kg)	えび	基準年	平成 29～令和元年度 3 カ年平均：1,829
		目標年	令和 7 年度：1,921
	たこ	基準年	平成 29～令和元年度 3 カ年平均：469
		目標年	令和 7 年度：492
	かれい	基準年	平成 29～令和元年度 3 カ年平均：212
		目標年	令和 7 年度：223
新規正組合員加入数	基準年	平成 27 年～令和元年度：14名	
	目標年	令和 3 年～7 年度：10名	

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

① 主要魚種の単価向上
 基準：直近過去 3 カ年の各魚種別平均単価
 目標：整備を実施した施設の活用等により付加価値を向上させ、単価の 5%向上を目標とする。
 (t・百万円)

魚種	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		3 カ年平均		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	単価
えび	589	1,055	471	904	484	865	515	942	1,829
たこ	1,664	646	1,561	840	1,344	627	1,523	704	462
かれい	742	168	600	130	870	168	738	156	212

② 新規正組合員加入の維持
 基準：直近過去 5 カ年の正組合員加入人数
 目標：本プランに基づく担い手の確保・育成の取組により、これまでと同様に年間 2～3 名の加入を維持するものとして、5 カ年の正組合員の加入人数 10 名を目標とする。

	H27	H28	H29	H30	R1	合計	5 カ年平均
正組合員加入数	2	1	2	3	6	14	2.8

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国)	競争力強化に資する漁業機器等の導入支援
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(国)	中核的漁業者に対する漁船導入支援及び漁業転換による収益性向上、漁業経営の改善
水産業成長産業化沿岸地域創出事業(国)	中核的漁業者に対する漁船、漁具等導入支援

<p>広域浜プラン緊急対策事業(効率的な操業体制の確立支援)(国)</p>	<p>統一的な航行規則による操業コストの削減</p>
<p>広域浜プラン緊急対策事業(クロマグロ混獲回避活動支援)(国)</p>	<p>安定的操業を図るため、クロマグロの混獲が確認された際、混獲を回避するための取組を行う。</p>
<p>水産業競争力強化緊急施設整備事業(国)</p>	<p>衛生環境強化機能整備、電力・燃油補給施設</p>